１．心のクリニック活動報告
（2013年４月～2014年３月）

本年度の紀要より、活動報告を年度報告としてまとめた。本活動報告では2013年度のものを報告する。本文中の数値は全て2013年度のものであり、また昨年同時期の統計比較は、全て2012年度の同時期の数値と比較した。そのため、昨年度紀要に掲載されている数値と、今回の数値が異なる場合が多い（昨年度の統計は2012年９月～2013年８月までの１年間の統計）。予めお断りしておく。

１）心のクリニックの運営体制

⑴　スタッフ構成

心のクリニックの2014年11月時点のスタッフ構成は、表１に示したように相談員16（本学心理学科専任教員７名、非常勤相談員９名）、研修相談員３名、院生相談員25名（修士課程２年生14名、修士課程１年生11名）、事務職員２名であり、総勢46名で心のクリニックの運営に当たっている。

表１　スタッフ構成

相　談　員		研修相談員	院生相談員		事務職員	計
本学教員	非 常 勤		Ｍ　１	Ｍ　２		
7	9	3	11	14	2	46

※2014年11月時点

⑵　施設について

心のクリニックは、追手門学院大学地域支援心理研究センターの１～３階にあり、以下の様な施設において相談活動を行っている。

１階：事務室および受付
　　プレイルーム　　２室
２階：相　談　室　　３室
　　集団カウンセリング室　　１室
　　心理検査室　　１室
　　資　料　室　　１室
　　待　合　室　　１室
３階：相　談　室　　２室
　　スタッフルーム　　１室
　　ミーティングルーム　　１室
　　会　議　室　　１室
　　多 目 的 室　　１室

⑶　心のクリニック相談員会議

心のクリニック相談員会議は2006年４月から原則として月１回の開催となり、2013年４月から2014年３月の期間に８回の会議を行った。相談員会議は、本学教員である相談員に加え事務職員（記録者）１名が参加し、主にクリニックの運営や大学院生の臨床実習の進め方等について協議を重ねている。

⑷　インテーク・カンファレンス

インテーク・カンファレンスは、昨年同様、月曜日５時間目（16：40～18：10）の臨床心理学研究法演習の中で行なった。参加教員は、科目担当教員は勿論であるが、精神科医であるセンター長が毎回出席している。また、担当以外の心理学科専任教員や非常勤相談員である臨床心理士も時間が許す限り参加することがあり、活発な討議が行われている。Ｍ１、Ｍ２の必修科目なので、毎回大学院生が参加した。そこでは電話受付やインテーク面接の情報に基づいてケースの概要が報告され、ケース担当者の人選、初期の見立てと面接方針等について検討を行っている。新規ケースについて相談員が臨床心理士としてどのような臨床的判断を加えるのか、また初期の見立てや方針がどのようになされるのかについて、院生相談員が身近に学ぶ機会を提供できるように意図されており、大学院生の教育の一環として貴重な時間となっている。

⑸　研修相談員制度

本学臨床心理学コース修了者で臨床心理士の資格取得を目指す者、ないしはそれと同等以上の学力･経験をもつ学外者で、臨床研修を希望する者に対して、研修相談員の制度を設けている。2013年度は４名の研修相談員が在籍し、インテーク面接、心理査定、心理面接、プレイセラピー、研究などの業務に関わっている。心理面接、心理査定に関しては本学心理学科専任教員もしくは非常勤相談員（臨床心理士）からスーパービジョンを受けており、また研究に関しては心理学科専任教員から指導を受けている。

２）相談活動について

⑴　開 室 時 間

月曜日から金曜日の午前11時から午後６時まで。

⑵　相 談 件 数

①　電話相談および問い合わせ件数

2013年度の電話による相談と問い合わせ件数を、表２に示した。連携機関・学校関係からの紹介、地域の病院やクリニックからの紹介、また新聞記事や本学ホームページ等により、心のクリニックの情報を知り、電話連絡がある場合が多かった。この一年間で75件（前年同時期は69件）の電話相談および問い合わせがあり、その内、インテークにつながったものは44件（以下、同43件）、他機関へ紹介したものが1件（同３件）、電話のみが26件（同19件）、インテークのキャンセルが4件（同１件）となっている。電話による問い合わせは前年よりも増加傾向にある。

表２　電話相談および問合せ件数

内　訳	インテーク	リファー	電話のみ	ｲﾝﾃｰｸｷｬﾝｾﾙ	その他	計
件　数	44	1	26	4	0	75

次に、月別の電話相談および問い合わせ件数を表３に示した。最も多かった月が2013年の９月の15件である。これは、10月にスタートする「にこにこ教室」のインテークが入ったためである。次いで多かったのは７月、10月の９件である。本年度は、７月～11月に電話問い合わせ全体の64％である48件が集中している。逆に少なかったのは、2013年12月の０件、2014年２月の１件である。電話による相談および問い合わせは、夏休みや春休みといった学期の終了間際および開始といった時期が多い傾向にあった。

表３　月別電話相談および問い合わせ件数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
インテーク	2	3	3	5	4	11	6	5		3	1	1	44
リファー	1												1
電話のみ	3		1	4	3	3	2	3		1		6	26
ｲﾝﾃｰｸｷｬﾝｾﾙ		1				1	1					1	4
その他													0
計	6	4	4	9	7	15	9	8	0	4	1	8	75

※インテークは、申込み日でカウントする

② 新規相談受理人数

新規相談受理人数を、表４に示した。この１年間の新規相談受理人数は、68名であった。このところ新規相談受理人数はほぼ安定している。内訳は０～６歳が12件、７～12歳が５件、13～18歳が７件、19～25歳が２件、26～40歳が29件、41～60歳が23件、61歳以上が０件となっている。

当クリニックでは、幼児を対象とする集団遊戯療法「にこにこ教室」を開催していることから、幼児とその保護者の年齢層の受理人数が多くなるのが例年であるが、ここ数年は26～40歳および41～60歳が最も多く、各19件、23件となっている。ここ数年、働き盛りのこの層の相談が多くなった。地域貢献として、この年齢層のニーズを踏まえ、一昨年度よりクリニック開室時間を1時間遅くした。開室時間延長の効果が少しずつ定着しつつあると考えられる。

表４　新規相談受理人数

年齢層	0～6	7～12	13～18	19～25	26～40	41～60	61～	計
人　数	12	5	7	2	19	23	0	68
%	17.6%	7.4%	10.3%	2.9%	27.9%	33.8%	0.0%	100.0%

※インテークを２回実施したケース、同席者があったケースを含む

次に月別の年齢層別新規相談受理人数を表５に示した。2013年度の新規受理人数は68件であり、2012年度の60件より８件の増加をみた。受理人数の最も多い月は2013年10月の20件、次いで2013年６月、９月の11件であり、最も少ない月は2013年５月の０件と2014年の２月の１件であった。例年比較的受理面接が多いのは５月と10月であり、これは５月と10月にスタートする「にこにこ教室」の参加人数（児・母親）が加算されるからである。2012年度と同様に、2013年度も、「にこにこ教室」が秋学期のみの開室となったため10月のみ新規相談人数の増加をみた。また受理面接が、夏期休暇中や年度末および年始に少ないのは例年通りである。表３の電話の問い合わせ自体はむしろ増える時期でもあるが、当クリニックは大学附属機関であるため、閉室期間と重なり、他の月より開室日数が少ないことが最大の原因と考えられる。

表５　月別年齢層別新規相談受理人数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
０～６			2			3	5	1				1	12
7～12			1		2	1			1				5
13～18	1		2			1	2	1					7
19～25	1		1										2
26～40	2		2	1		3	6	2	1		1	1	19
41～60	1		3	2	1	3	7	3	1	2			23
61～													0
計	5	0	11	3	3	11	20	7	3	2	1	2	68

※インテークを２回実施したケース、同席者があったケースを含む

③　インテーク面接以後、および、継続面接以後の経過

インテーク面接後の経過の件数を表６－１に、その人数を表６－２に示した。また、継続面接後の経過の件数を表７－１に、その人数を表７－２に示した。件数の上では、インテーク面接以降、継続の契約となったケースは36件（前年同時期37件）であり、インテーク面接のみが８件（同７件）、リファーが１件（同０件）であった。「インテークのみ」には、来談希望者の希望する通所曜日・時間及び料金の面で都合が合わず治療契約に至らなかったケースが含まれている。インテーク件数は2012年度とほぼ同数の45件（同44件）であった。

課題は受理面接後、継続としてスタートしたケースが早く終結していることである。一昨年の報告でも触れられているように、ここ数年、継続面接の件数や人数（表７－１、７－２参照）の割合が低い。2013年度は継続件数は、全体の58.3％の21件であり、継続人数は全体の55.2％の32人となっている。つまり４割以上が年度内（多くは面接回数としては数回）での終結となっている。長期継続ケースの減少については、ここ数回の活動報告でも触れられている。原因は様々であろう。内訳として、近隣の病院からのリファーによる成人層の増加に伴い治療困難なケースが増えており、そもそもの継続が困難な場合があること、成人の事例は幼児や児童と異なり、わずかの改善で日常生活に復帰（もしくはカウ

ンセリングの一時中止）が生じる可能性があること、勿論、本クリニックの対応に何らかの課題がある場合も十分考えられる。今後も検討が必要な課題である。

表６－１　受理面接以後の経過（件数）

内　訳	インテークのみ	継　　続	リファー	計
件　数	8	36	1	45
%	17.8%	80.0%	2.2%	100.0%

表６－２　受理面接以後の経過（人数）

内　訳	インテークのみ	継　　続	リファー	計
人　数	8	58	2	68
%	11.8%	85.3%	2.9%	100.0%

表７－１　継続面接以後の経過（件数）

内　訳	継　　続	終　　結	リファー	計
件　数	21	15	0	36
%	58.3%	41.7%	0.0%	100.0%

表７－２　継続面接以後の経過（人数）

内　訳	継　　続	終　　結	リファー	計
人　数	32	26	0	58
%	55.2%	44.8%	0.0%	100.0%

※再インテークのケースを含む
※インテークを実施しなかったケースを含む
※継続面接から同席者ができたケースを含む

④　来談者実人数と年齢層

2013年度の来談者実人数とその年齢層を表８に示した。来談者実人数の総計は114名であった。2013年４月以前に受理をして継続中のケースを含んでいるため、来談者実人数は受理面接の件数より多くなっている。内訳では26～40歳が28名、41～60歳が42名と成人層の来談者が他の年齢層に比し多かった。

26～40歳の年齢層と０～６歳（11名）が多くなるのが例年であるが、2013年度も「にこにこ教室」の開催が秋学期のみであったことが、この年齢層の突出がなかった要因と考えられる。また幼稚園から大学院までの園児・児童・生徒・学生を擁するのが本学の特徴であるのだが、中高からの紹介の少なさ（多少はある）と合わせて、大学生、大学院生は学生相談室での対応となることも、前・中思春期層（特に大学生・大学院生の年齢層）の占める割合が少ないことと関与していると考えられる。

また、総来談件数と総来談者数の検討を行っていないが、一人当たりの来談回数が以前より減少している可能性が考えられる。詳細な検討とともに、来談間隔の調整を行う必要があるのかもしれない。

表８　来談者実人数と年齢層

年齢層	0～6	7～12	13～18	19～25	26～40	41～60	61～	計
人　数	12	9	14	7	28	42	2	114
%	10.5%	7.9%	12.3%	6.1%	24.6%	36.8%	1.8%	100.0%

⑤　来談者実人数と居住地域

来談者実人数の居住地域を表９に示した。来談者の居住地域では、本学の所在地である茨木市居住の来談者がもっとも多く64名と全体の56.1％を占めており、次いで近隣の北摂地域の高槻市（22名）、吹田市（７名）が多かった。この傾向は、ここ数年持続しており、本クリニックは地域に根差した相談室として機能しているが、反面遠方からわざわざ来談する場合はまれであることが窺われる。

表９　来談者実人数と居住地域

居住地	大阪府									兵庫県		京都府		奈良県		合 計
	茨木市	高槻市	吹田市	大阪市	豊中市	箕面市	三島郡	貝塚市	松原市	尼崎市	西宮市	京都市	向日市	奈良市	生駒郡	
人数	64	22	7	5	1	3	1	1	2	2	1	2	1	1	1	114
%	56.1%	19.3%	6.1%	4.4%	0.9%	2.6%	0.9%	0.9%	1.8%	1.8%	0.9%	1.8%	0.9%	0.9%	0.9%	100.0%

⑥　相談内容別相談件数

相談内容別相談件数を、表10に示した。相談内容で最も多かったのは「子どもの問題に関する親からの相談」であり2013年度は27件（2012年度は22件）であった。ついで「行動上の不適応問題（幼児・児童・生徒）」の７件（同５件）、「言葉の発達の遅れやコミュニケーションの問題」６件（同３件）、「自閉症スペクトラム（疑いを含む）」３件（同４件）と、幼児・児童・生徒についての相談が、保護者からの相談を含めてかなりの数を占めている。これらは、連携機関から紹介を受けたケースが大半を占め、例年通りの傾向を示している。

一方、表10の「子ども以外の家族の問題」以下の項目（「対人関係」「自分自身実存に関する問題」「精神的疾患」「身体的問題・心身症」等）は、子ども以外の本人の相談であるが、合計21件（同18件）と少しずつ増加傾向にある。

表10　相談内容別相談件数（複数記入）

来　談　者　主　訴　の　内　容	人 数
言葉の発達の遅れやコミュニケーションの問題（幼児・児童）	6
自閉症スペクトラム（疑いも含む）	3
不登校・不登園	3
学業上の問題	1
行動上の不適応問題（幼児・児童・生徒）	7
子どもの問題（親からの相談）	27

来 談 者 主 訴 の 内 容	人 数
子ども以外の家族の問題	2
対人関係	4
自分自身の実存に関する問題	5
精神的疾患	4
身体的問題・心身症	2
コンサルテーション	3
その他	1

⑦　月別来談者延べ人数とその面接の種類

各月別の面接種別ごとの延べ来談人数を表11に示した。2013年度の延べ来談人数は995名であり、2012年度の772名より223名の増加となった。受理面接は68名（2012年度は60名）と８名の増加に過ぎないが、全体に相談延べ人数は増加している。最も顕著な増加は、個人遊戯療法の子ども215名（2012年度149名）、親178名（同141名）で、延べ人数はそれぞれ56名、37名の増加をみている。また、個人カウンセリングは287名（同244名）で43名の増加、並行カウンセリングは子ども52名（同22名）、親58名（同22名）とそれぞれ30名、36名の増加である。こられの人数の増加の原因は、ふたつ考えられる。ひとつは、2012年度は８月に改修工事を行ったため、当クリニックが閉室になったことである。しかし、従来８月の来所のべ人数は60名前後であり、2013年度の述べ人数が223名も増えた理由にはなりにくい。もうひとつの理由は、2011年度よりも2012年度の方が、新規受理面接件数が多いことである。昨年度の本報告で、「表４の０～６歳および７～12歳の新規相談受理人数は、昨年同時期よりも多い」ことについて触れ、「よって、来年は、この２つの面接種別人数は、再び増加すると予測される」と述べており、2013年度はその結果が表れていると考えられる。

内訳では、10月～12月の時期が最も多く、127名、123名、115名と100名を超えている。次いで２月の91名が多い。10月～12月および２月が多い傾向は、ここ数年続いている。延べ来談者数が最も少なかったのは、５月の55名、次いで４月、６月がほぼ同数の59名、61名であった。

例年来談者が少ない月は、年度末や夏季休暇の休室期間を含むことが多いが、本クリニックは春以降に来談者が激減しているのが見て取れる。これは、年度替わりの際に、終結ケースが増えるためである。終結ケースが増える大きな理由のひとつは、クリニックの非常勤相談員が任期満了にて３月に退職することが多いこと、また、子どもを担当している院生相談員が大学院を修了し、相談員の変更が余儀なくされること、などが契機となっている。勿論、年度末は次年度の進路や方向性を考える時期ではあるので、相談者の諸事情で終結を望まれる場合もある。しかし、変化の多い時期ゆえに、相談機関としてはなるだけ変化の少ない安定した環境を提供したい。担当者交代がスムーズに行われるよう工夫を行っているが、これは当クリニックの検討課題のひとつだと思われる。

面接種類別では、カウンセリングが年々増加し、215名と最も多いのが2013年度の特徴

である（2012年度は149名）。先の表４、表８で示した通り、41～60歳の年代の来談者が増加していることがその理由と考えられる。

表11　月別面接種別相談人数（延べ人数）

		2013　年　度												計
面接種別		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	
受理面接		5		11	3	3	11	20	7	3	2	1	2	68
心理検査					1	1	1	2	1	2	2		1	11
集団遊戯療法	（子）							12	21	15	6	9		63
	（親）							10	18	13	5	7		53
個人遊戯療法	（子）	15	16	14	15	16	16	23	22	19	21	22	16	215
	（親）	11	11	11	13	17	15	21	16	18	17	15	13	178
並行カウンセリング	（子）	3	3	3	4	3	3	7	6	7	3	5	5	52
	（親）	3	3	3	4	3	5	5	6	9	5	6	6	58
カウンセリング		21	21	19	23	19	26	26	26	29	27	26	24	287
スーパーヴィジョン		1	1	1	1	1	1	1						7
コンサルテーション					2	1								3
合計		59	55	62	66	64	78	127	123	115	88	91	67	995

表12　月別面接種別相談人数（実人数）

		2013　年　度												計
面接種別		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	
集団遊戯療法	（子）						1	6	6	6	6	5		30
	（親）						1	5	5	5	5	4		25
個人遊戯療法	（子）	9	8	10	9	9	12	11	13	11	12	11	13	128
	（親）	7	6	8	7	7	10	10	10	12	11	9	11	108
並行カウンセリング	（子）	2	2	4	2	3	3	4	5	6	3	3	4	41
	（親）	2	2	4	2	3	4	6	5	6	4	4	5	47
カウンセリング		14	12	11	12	9	17	16	16	16	17	17	17	174
スーパーヴィジョン		1	1	1	1	1	1	1						7
コンサルテーション					2	1								3
受理面接のみ		2		1	2	1	2	3	2					13
合計		37	31	39	37	34	51	62	62	62	58	53	50	576

３）高度専門職（臨床心理士）養成について

心のクリニックの教育・訓練機関としての役割

本学大学院心理学研究科心理学専攻臨床心理学コースは、2006年４月に日本臨床心理士資格認定協会臨床心理士養成第１種指定大学院となって８年目を迎えた。臨床心理士のアイデンティティは臨床心理学における心理面接、心理査定、地域援助、事例研究や実証的研究を実践し、またスーパービジョンを受けることによる専門性の向上にあるとされ、この様な専門性のアイデンティティを確立できるように専門家を育成することを目的としている。したがって学内外あわせて多数の実習施設において実践的訓練の機会を設けている。

心のクリニックは地域に開かれた心理相談施設であるとともに、上記の如く臨床心理士養成機関でもある。したがって、来談者に対しては、電話による問い合わせやインテークの段階でその旨を説明し、臨床心理士有資格者の指導のもとに大学院生がケース担当するということについて了解してもらっている次第である。そのために大学院の授業においては、心理臨床の実践ができるように厳しい訓練がなされている。

たとえば、茨木市障害福祉センター内の早期療育相談室「すくすく教室」との連携による「にこにこ教室」においては大学院生が集団遊戯療法のセラピストを担当している。また、これ以外の個別の来談者についてはインテーク面接後、各ケースについて担当者の検討がなされ適切な処遇がなされるように配慮を行っている。

以下に大学院生の学内外での実習活動について記す。

「臨床心理基礎実習・臨床心理実習」の学内実習について（2014年度）

① 大学院１年次は、当クリニックにおいて臨床心理基礎実習の授業として、次のような実習を行っている。

・プレイルームや相談室の整備

・インテーク・カンファレンス

心のクリニックのインテーク・カンファレンスに参加し、ケースの概要からの見立て、処遇の仕方などについて学んでいる。

・ケース・カンファレンス

大学院2年次生に対して行っているケース・カンファレンスに参加することを通して、ケース・プレゼンテーションの仕方や心理療法の過程、ケースに対する理解、心理臨床的援助の方法などを総合的に学んでいる。

② 大学院２年次には、当クリニックにおいて臨床心理実習の授業として、以下のような実習を行っている。

・プレイルームや相談室の整備

・「にこにこ教室（前期10回、後期10回）」および保護者グループへの参加（2013年度、2014年度は後期のみ開室）

・不登校や行動面での問題を抱えた幼児・児童・生徒を対象として個別の心理面接や遊療法および心理査定の実践。これらについては全て各セッション終了後に臨床心理士よりスーパービジョンを受け、ケースへの関わり方や理解の仕方学習している。

・インテーク・カンファレンス

心のクリニックのインテーク・カンファレンスに参加し、ケースの概要からの見立て、処遇方針の立て方などについて学んでいる。

・ケース・カンファレンス

実際に院生自身が担当しているケースの経過について90分の時間をかけて、発表し、相談員（本学教員）や非常勤相談員からの指導や提案を受けることによって、クライエントの理解や関わり方について検討を行っている。これにより自身のセラピストとして関わり方を丁寧に見直し、より適切に今後のケースに関わるための展望を得ることを目的としている。

・スーパービジョン

さらに各大学院生は担当したケースについて個別に実習担当の相談員（学外教員）より概ね２週間に１回、スーパービジョンを受けることになっている。これにより、さらに詳細に自身の心理臨床的援助の仕方や、ケースの中でのセラピストとしての自分の在り方に気づき、より専門性を確実なものとするようにしている。

「臨床心理実習」「臨床心理基礎実習」学外施設における実習活動について（2014年度）

臨床心理実習担当教員（学内）：中村このゆ・馬場　天信・溝部　宏二
臨床心理基礎実習担当教員（学内）：辻　　潔・中鹿　　彰・永野　浩二・吉村　晋平
学外実習担当臨床心理士：荒木　梨加・大原　創太・片桐　陽子・黒田　晴美・
高橋　慶子・武久　千夏・手塚真樹子・永井　　享・
名倉　祥文・梨谷　美帆・西　　友子・橋本　　愛・
増子　高通・三好　幸弘・安尾　利彦

１．長期実習（大学院生の希望人数と受け入れ先の都合で毎年振り分け人数が異なる）

⑴　施　設　名：豊中市子ども未来部子育て支援課子育て支援センター「ほっぺ」
臨床心理士：黒田　晴美
所　在　地：大阪府豊中市中桜塚３－１－１
期　　間：2014年５月～2015年３月、毎週１回　９：15～17：15
（１日７時間×45週、約315時間）
実習者数：１名
実習内容：母子同室の集団遊戯療法（１才児グループ、２才児グループ：軽い言語発達の遅れ）と母親グループ、その後のケース・カンファレンスに参加。個別の遊戯療法もしくは保育（被虐待の疑いのある未就園児、発達に遅れのある幼児、情緒面の問題を持つ児童）を担当し、毎回事後に外部のスーパービジョンを受ける。その他に、虐待に関する研修会への参加。保健師、保育士との協働を体験する。発達検査の実施とその後のスーパービジョンとケース・カンファレンスに参加。1歳半健診・3歳児健診の見学や外部の研修会に同行する。

⑵ 施　設　名：医療法人北斗会さわ病院（単科精神病院）
臨床心理士：増子　高通
所　在　地：大阪府豊中市城山町１－９－１
期　　間：2014年４月～2014年９月、毎週火曜日８：45～17：00（１名）
2014年10月～2015年３月、毎週火曜日８：45～17：00（１名）
（１日8.5時間×24週、204時間）
実 習 者 数：２名
実 習 内 容：通院・入院カルテを読み込み、ケース・カンファレンスに参加することで、精神障害者について理解を深め、多職種の協働とチーム医療の実際を知る。病棟での統合失調症患者との面接、デイ・ケアにおける集団療法（統合失調症圏、気分障害等の通所患者）のなかで、スタッフの一員として精神科リハビリテーションの一環に携わる。心理検査（統合失調症：WAIS-R・ロールシャッハテスト、心身症女性：バウムテスト・ロールシャッハテスト）を実施し、その後スーパービジョン（実施の仕方、検査の分析方法と報告書作成の仕方について）を受ける。

⑶ 施　設　名：医療法人栄仁会宇治おうばく病院（単科精神病院）
臨床心理士：片桐　陽子、名倉　祥文
所　在　地：京都府宇治市五ケ庄三番割32－１
期　　間：2014年４月～2015年３月　９：00～17：00
（１日８時間×45週、約360時間）
実 習 者 数：１名
実 習 内 容：前期は、心理室のスタッフルームにて心理検査（主に認知機能検査やバウムテストなど投影法）の実施および指導を受けることを中心に実習を行う。並行して、精神科病棟などで患者に接する時間を持つ病棟実習を行う。心理検査や患者との関わり方について１名の臨床心理士にスーパービジョンを受ける。後期は、精神科デイケア実習およびうつ病復職トレーニング（バックアップセンター）での実習を６ヶ月行う。

⑷ 施　設　名：国立病院機構大阪医療センター（総合病院精神科）
臨床心理士：安尾　利彦
所　在　地：大阪市中央区法円坂２－１－14
期　　間：2014年４月～2015年３月、毎週木曜日９：00～17：00
（１日８時間×45週、約360時間）
実 習 者 数：２名
実 習 内 容：毎週あるカンファレンスへ参加する。前期はHIV患者さんへのインタビュー内容について、後期は担当ケースについて臨床心理士からスーパビジョンを受ける。他校からの実習生と合同で、K式、認知機能検査などの勉強会がルーチンとして行われる。その他不定期ではあるが、精神科の予診や診察の陪席、認知機能検査や発達検査の実施と所見作成、HIVや血友

病の講義、がん緩和ケアサポートチーム回診への参加、AIDSカウンセリング研修会や看護師研修会への参加などが可能となっている。

⑸ 施　設　名：楓こころのホスピタル
臨床心理士：西　友子
所　在　地：大阪府泉佐野市中庄1025
期　　間：2014年４月～2015年３月、毎週１回　９：00～17：00
（１日８時間×45週、約360時間）
実 習 者 数：１名
実 習 内 容：デイケア（９：00～15：00）に参加し、その間に検査（WAIS-R、ロールシャッハテスト、バウムテスト、P-Fスタディなど）が依頼されれば優先的に実施する。デイケア終了後に臨床心理士よりスーパービジョンを受ける。また、他校からの実習生と合同で、描画テストをデイケアにて実施する。

⑹ 施　設　名：茨木教育センター　不登校児童・生徒支援室「ふれあいルーム」
臨床心理士名：橋本　愛
所　在　地：茨木市駅前４丁目７－２
期　　間：2014年４月～2015年３月　毎週１回、１日８時間
（１日８時間×45週、約360時間）
実 習 者 数：３名
実 習 内 容：適応指導教室におけるカウンセリング・心理査定・受理面接および他種業務との連携等を通して体験的に習得し、スーパービジョン、ケースカンファレンスにおいて指導を受ける。

⑺ 施　設　名：医療法人丹比荘　丹比荘病院
臨床心理士：梨谷　美帆、大原　創太
所　在　地：大阪府羽曳野市野164－１
期　　間：2014年４月～2015年３月　毎週１回、１日８時間
（１日８時間×45週、約360時間）
実 習 者 数：１名
実 習 内 容：集団精神療法等のグループアプローチ（デイケア）に参加し、精神障害者についての関わりを実習を通して学ぶ。また、広く精神科リハビリテーションにおける心理士の役割について学ぶ。

⑻ 施　設　名：社会医療法人弘道会　浪速生野病院
臨床心理士：武久　千夏
所　在　地：大阪市浪速区大国１－10－３
期　　間：2014年４月～2015年３月　毎週１回、１日８時間
実 習 者 数：２名

実 習 内 容：なにわ生野病院心身医療科となにわ生野病院ストレス研究所の２か所で実習を行う。前者では主に医師が治療に当たり、後者では医師、臨床心理士、成員保健福祉士、管理栄養士にチーム医療が行われている。いずれにせよ、実習前に他所からくる実習生と顔合わせを行う。実習開始後まず、摂食障害をはじめとする神経症、心身医療科の基礎知識、シュライバーの心得等に関して１か月にわたるレクチャーを臨床心理士から受ける。このレクチャー終了後、心療内科医、精神科医の心理療法、親面談の陪席し、シュライバーを務める。TAによる事前カンファレンスと事後カンファレンスがあり、担当する事例について、発表するため所感と共に簡潔に記録にまとめ、発表し、ディスカッションに加わる。チーム医療における臨床心理士の在り方について学ぶ。

２．心理査定実習

⑴　実習施設名：桃花塾（知的障害児・者施設、知的障害者更生施設）
臨床心理士：三好　幸弘
所　在　地：大阪府富田林市大字喜志206
期　　間：2015年２月６日～２月７日　13：30～17：00
実 習 者 数：11名（大学院１年）
実 習 内 容：事前研修として11月～12月にかけて、臨床心理査定演習で実習した新版Ｋ式発達検査法を実践現場で用いるために、より詳細な実施方法の習得を目指し（第３葉～第６葉までのロールプレイも含む）、実際に精神発達遅滞児・者に発達検査を行う際の心得と観察のポイントなどの指導を行う。実習当日は、知的障害児・者およびその更生施設についての現況の研修を受けた後、13～50才の入所者を対象に新版K式発達検査を実習者１人１ケース実施し、結果の処理と判定終了後にスーパービジョンを受ける。その後、学内において検査報告書の作成、さらにレポート課題を提出する。事後研修：実習院生それぞれが検査を行った知的障害児・者についての理解をさらに深められるようカンファレンスを持つ。

３．短期施設実習

⑴　医療法人北斗会さわ病院（単科精神病院）
臨床心理士：増子　高通
所　在　地：大阪府豊中市城山町１－９－１
実 習 期 間：2014年５月14日　13：30～17：00
実 習 者 数：18名（大学院１・２年）
実 習 内 容：急性期精神医療と精神障害者リハビリテーションシステムを備える病院の概要、地域における精神病院のあり方についての研修の後、病院内（病棟・デイケア）や通所授産施設、グループホーム、福祉工場などで実習（統合失調症圏や気分障害の患者と関わる体験）。終了後、全施設に関しての質疑応答と、療機関における臨床心理士の役割についての研修を受け、

実習レポートを提出する。

⑵　財団法人復光会垂水病院（単科精神病院）
臨床心理士：高橋　慶子
所　在　地：兵庫県神戸市西区押部谷町西盛566番地
実 習 期 間：2014年11月17日　15：00～17：00
実 習 者 数：12名（大学院２年）
実 習 内 容：主に中・高年のアルコール・薬物依存症と統合失調症（慢性期）治療が中心の単科精神病院（病棟、外来、デイケア）の概要、各治療プログラムについての説明を受けた後に、病棟内を見学。終了後、プログラム、全施設に関しての質疑応答と、医療機関における臨床心理士の役割についての研修を受ける。

⑶　施　設　名：大阪府衛生会希望の杜（情緒障害児短期治療施設）
臨床心理士：永井　亨
所　在　地：大阪府高槻市大字奈佐原955
実 習 期 間：2014年６月23日　10：30～12：30
実 習 者 数：11名（大学院１年）
実 習 内 容：大学院１年の春学期に、全員での施設見学および、カルテを介して被虐待児を含めた情緒障害児についての説明を受ける。その後、希望者は大学院１年の秋学期に２泊３日（2014年11月７日～９日に実施）で、施設内に宿泊することを通じて、情緒障害児の生活体験と生活指導について研修する。

⑷　茨木市児童発達支援事務所「すくすく教室」
臨床心理士：荒木　梨加
所　在　地：大阪府茨木市春日３丁目13番５号
期　　間：2014年５月26日　15：30～17：00　および別日程で９：00～17：00
実 習 者 数：11名（大学院１年）
実 習 内 容：全員での事前研修として、施設の概要と療育についての説明を受ける。その後、６月～９月の期間に１名ずつが１日実習として９：00～17：00の間、療育グループである「すくすく教室」に、臨床心理士の指導を受けながらスタッフの一員として参加した。

⑸　施　設　名：摂津市家庭児童相談室（月・水・金：千里丘、火・木：鳥飼で開室）
臨床心理士：手塚真樹子
所　在　地：大阪府摂津市千里丘東１－16－２
期　　間：2014年６月９日　15：00～17：00
実 習 者 数：11名（大学院１年）
実 習 内 容：全員での事前研修として、施設の概要と心理士の活動についての説明を受

ける。その後、母子同室の集団遊戯療法（くまさん教室：良好な母子関係を促進するグループ、対象は幼児）または母子分離して行う集団遊戯療法（自閉傾向のある幼児のグループ）、その後のケース・カンファレンス等に参加。また、個別の遊戯療法、カウンセリング、新版K式発達検査の実施の際の観察学習を行う。

⑹ 実習施設名：桃花塾（知的障害児・者施設、知的障害者更生施設）
臨床心理士：三好　幸弘
所　在　地：大阪府富田林市大字喜志206
期　　間：2014年７月28日　13：30～17：00
実 習 者 数：11名（大学院１年）
実 習 内 容：知的障害児・者およびその更生施設の入所者（13～50才代の重度精神発達遅滞。自閉症も含む）の入所児・者を対象にしたグループ活動に分かれて参加。その後、活動についてのグループ･スーパービジョンを施設職員（臨床心理士）より実施。また、施設活動や施設設備、臨床心理部の活動や役割などについての説明を受ける。